

とらいあんぐる



2018年7・8月

一音会ミュージックスクール発行

「おばあちゃんの絵」

私の祖母は、絵を描くことを趣味に
していました。もっぱら油絵です。

中でも、人物画を多く描いていま
した。

幼い頃は、私も頼まれてモデルをや
りました。常にヒマな私にぴったりの
役目です。

でもモデルは、じっとしていなけれ
ばならないので、つまらないものです。

いつもしぶしぶ応じるのですが、あ
まりに退屈なので、祖母と交渉し、い
つしか「本を読んでいても良い」とい

う約束をとりつけてしまいます。

そのため、祖母が描いた私の肖像画
は、うつむいて本に目をおとす、目を
ふせたものばかりです。その点は今、
たいへん後悔しています。

せっかく祖母が私の絵を描いてくれ
るというのだから、まっすぐ前を向い
た顔を描いてもらうべきだったと思い
ます。

それに、大好きな祖母の顔を、もっ
ともっとたくさん見ておけば良かった
とも思います。

本なんていつでも読めるのに、どう
して私はあの時、祖母の顔をちゃんと

見ておかなかったのだろう・・・祖母の顔を見ることができない日が来ることを、あの時は想像もできなかったのです。

祖母を恋しく思うと、いつも数々の後悔に胸をかきむしられるような思いがします。

明らかに協力的ではない私を相手に、祖母がどうして好んで人物画を描き続けたのか、不思議に思ったこともあります。

「おばあちゃんはどうして、人間の顔を描くの？」

「おばあちゃんはね、人間が好きなよ」

祖母はニコニコと笑いながら、答えます。

「ふーん」

幼い私は、祖母が私にかけてくれた愛情に気づくこともありません。

小学校高学年になり、それなりに忙しくなった私は、祖母の絵のモデルになることも少なくなっていました。

そうすると祖母は、かがみを見なが

ら自画像を描くようになりました。

私は、絵のモデルをするのは退屈でイヤなのですが、祖母が絵を描いているところを見るのは、大好きでした。勝手なものです。

絵を描いている祖母の近くにはりついて、絵が仕上がっていくさまを、よく見ていました。

祖母は、たくさんの自画像を描きました。

その祖母が、70代にさしかかった頃、とても不吉なことをいいただきました。

「これまでたくさん自画像を描いたけれど、おばあちゃんはこの絵が一番、好きだわ。これより好きな絵はきっとこの先、描けないわ」

しみじみした口調に不吉なものを感じ取った私は、はじかれたように、否定しました。

「そんなことないよ！おばあちゃん、これからも、もっとたくさんたくさん、絵を描くのでしょうか？その中にだって、おばあちゃんの気に入る絵が

あるし、もっともっと良い絵が出てくるかもしれないよ！」

あわてて私がそんなことをいってしまうくらい、祖母はめっきり歳をとっていました。

いつも若々しく、前向きだった祖母が、自分の終末をみすえていることが分かり、私はどうしようもなく、気持ちさがわつていました。

気がつくとは私は、涙ぐんでいました。祖母は私の涙をみとめ、自分の言葉の意味が私に伝わっていることを確信したようでした。

そして今度は、はっきりいいました。

「おばあちゃんが死んだらね、遺影には写真じゃなくて、この絵を使ってちょうだい」

私は、なんと答えたか、おぼえていません。

たいへん大きなショックを受けていました。

当時の私には、祖母を失うことなど、おそろしくて想像もできないことでした。

その頃から、祖母は油絵を描くことが、どんどん減っていったのです。

描いたことがある方ならお分かりでしょうけれど、油絵は道具が多く、出すのもしまうのも、手間がかかります。高齢の祖母には、それが負担になっていました。

何度も、「手伝う」といいました。でも、きかない人でした。

手間の少ない、水彩画やスケッチにと、移っていきました。

祖母は、言葉通り、その後、自画像を描かなくなりました。

その自画像を最後の自画像にしてしまったのです。1つには、それだけ満足がいったのでしょう。



亡くなった時、あの絵を探しました。
ところが、見つけれないのです。
あの絵を忘れるはずがありません。
木炭で下絵を描くところから、そば
でずっと見ていたのです。

自画像はたくさんあるのですが、ど
れもあの絵ではありません。

おばが「これではないかしら？」と
手にとったものも、全然、違う絵でし
た。

しかし、私の記憶にある絵と同じサ
イズのキャンバスでした。

でもやっぱり違います。

一目見て、明らかに違います。

絵の中の祖母は、真っ白な髪の毛な
のです。私の記憶にある絵では、祖母
の髪は白髪まじりながら、黒い髪でし
た。当時の祖母のように。

背景もまるで違います。

目の前にある絵では、祖母の背景は
灰色一色に塗りつぶされているので
すが、私が探していた絵は、本棚やら窓
やら、室内の風景が描きこまれていた
のです。

おばは、手にした絵をしげしげと見
ます。

そして、ため息とともに吐き出しま
す。

「この絵、今のお母さんに、なんて
そっくりなの・・・」

私ものぞきこみます。

私も、息をのみます。本当にその通
りだったからです。

最後の自画像を描いた当時の祖母は、
70代前半でした。

亡くなった時は、84歳。実に10
年の歳月が経ち、祖母の髪は真っ白に
なり、顔だちもどことなく変わってい
ました。

おばの手にした絵は、晩年の祖母に
そっくりなものでした。

おばと私は、言葉もなく、しばらく
絵を見つめた後、顔を見合わせました。

二人、同じ疑問にたどり着いたので
す。

「いつ、これを描いたのかしら？」

実は私は、その絵こそが私の探して
いた絵であることに、途中から気がつ

いていました。構図がまったく同じだからです。

上から描き足してあるのです。そうとしか考えられません。

祖母は、いつの時点か分かりませんが、あとから髪の毛を白く塗りなおし、背景も遺影にふさわしく、一色に塗りつぶしたのでしょう。他にも、いくつか描きかえてあると思われる箇所がありました。

その時、祖母がどんな気持ちだったのか、知る由もありません。

いつの間に・・・そもそも、私の知らない間にそんなことをすることが、可能だったのだろうか・・・祖母はなぜ、自分が亡くなる時の姿を、こんなにはっきり分かっていたのか・・・ナゾはつきません。

考えていると、本当に祖母が描きかえたのだろうか・・・とまで、思えてきます。

ええ、もちろん、絵が勝手に変化（へんげ）したとはいいません。

でも、不思議なことだったなあと、

祖母の命日が近づくにつれ、思いだすのです。

祖母の命日は8月4日です。

今年も、祖母の誕生日であり母の誕生日であり、祖母の命日である、8月4日がやってきます。

命日に、お墓にお参りしたら、きいてみようと思います。

おばあちゃん、あの絵、不思議だね。

ところで、あの絵、本当におばあちゃんが描いたの？

(江口 彩子)



◆もうすぐ「ピアノ発表会」です

7月7日より、「ピアノ発表会 しおり」と「ピアノ発表会 プログラム」をお配りしています。主担当の先生からお渡しするようにしていますので、まだお手元にはない方は、主担当の先生にお声かけください。

ピアノ発表会は、下記の通りです。

8月3日（金）・4日（土）・5日（日）・6日（月）

成増アクトホール

東京都板橋区成増3-11-3

東武東上線「成増駅」下車1分

東京メトロ有楽町線/地下鉄成増駅下車5分

たくさんの生徒さんにお申し込みをいただきました。お忙しい中、暑い中、ご参加をお決めくださったことに、深く感謝しています。

生徒さんご家族の皆さまが、発表会のためにご努力くださったことに応える、最高の会にしたいと思っています。スタッフ一同、当日までの時間、ギリギリまで、全力で指導にあたらせていただきます。ご不安なことがあれば、ご遠慮なくご相談ください。一緒に乗り切りましょう。

「リハーサル・トライ」もすでにスタートしています。「『リハーサル・トライ』で失敗しておく、本番で同じ失敗をしない」というジンクスがあります。うまく弾けなくても、気にすることはありません。思い切って、弾いてください。

「リハーサル・トライ」の担当先生は、普段のピアノ担当先生に、お一人お一人の生徒さんについて、連絡を入れています。すべての生徒さんが、少しでもすてきに演奏できるよう、すべてのスタッフが一丸となっています。

大きな舞台をふむことは、それまでの準備期間も含め、大きな成長の糧になります。

この夏、生徒さん全員が、大きな舞台を経て、大きく成長されますようにと、願っています。



◆「ピアノ発表会」にご協力をお願いいたします

「ピアノ発表会」では、すべての生徒さんにすてきな演奏をしていただくことが大きな目標ですが、それ以上に重要な目標として、事故やトラブルなく、無事に進行させるということがあります。

生徒さんが舞台上がるまで、また演奏を終えてご家族のもとに戻るまで、誘導には多くのスタッフを配しています。小学校3年生以下の生徒さんは、演奏後、ご家族の方にお迎えにきていただくことをお願いしています。事故を防ぐため、原則として、お一人でおかえしすることはありません。ご家族の方がお迎えにいらっしゃらない場合、いつまでも舞台袖でお待ちいただくことになってしまいますので、ご注意ください。4年生以上の生徒さんも、演奏後、どのようにご家族の方とおちあうか、約束しておくといいでしょう。

舞台裏や舞台そでは、たくさんのスタッフがいるのですが、案外、スタッフの目が届きにくいのが、客席です。スタッフも、客席を見まわるようにしていますが、やはりご家族の皆さまのご協力が不可欠です。会場で不審な人物を見かけた場合には、会場のスタッフにご連絡ください。

また、今年から客席の一部を「撮影ゾーン」として、ご家族の方が演奏の撮影をお

こなっても良いエリアといたします。「撮影ゾーン」以外のエリアは、教室で制作するDVDのカメラにうつりこんでしまう危険性があるため、撮影をお控えいただけますよう、お願いいたします。撮影を予定されている方は、事前に「撮影ゾーン」にご着席いただくか、演奏の合間にすみやかにご移動ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

その他、当日、ご不明なことがありましたら、遠慮なくスタッフにおっしゃってください。一音会Tシャツを着ている者はすべて、ご対応できます。

◆体調管理をお願いします

こここのところ、発熱でレッスンを欠席される生徒さんが相次いでいます。風邪でもなく、プール熱でもなく、高い熱が出る症状は、あまりきいたことがありませんが、今年は何例も同様の報告があります。

異例に早く梅雨があけ、連日、厳しい暑さが続いていますので、そのお疲れかもしれません。

発表会でもっとも残念なことは、ご出演予定だった生徒さんが、ご病気で出演がかなわなくなることです。どうか、発表会までの期間、普段以上に体調管理に気を配ってお過ごしください。おケガも、おそれることの1つです。おケガをなさらないよう、十分に注意して生活してください。

お一人も欠けることなく、すべての生徒さんが元気に舞台上に上がれることを祈っております。



◆雑誌「ショパン」に教室が掲載されました

月刊誌「ショパン」の、「特色ある音楽教室」という記事に、一音会が取り上げられました。

7月18日刊行予定です。刊行されたら、「ショパンはうす」受付に、見本を置きますので、ご興味がおありの方は、ぜひお手にとってごらんください。

まったくの偶然なのですが、その号の表紙と巻頭インタビューを飾るのが、卒業生の藤田真央さんです。おもしろい偶然に、私どもも藤田くんも、驚いています。



← 月刊「ショパン」8月号

◆自転車にカギをかけてください

先日、「ヘンデルはうす」にとめていた生徒さんの自転車が盗難の被害にあう、という残念な出来事がありました。カギをかけていらっしやらなかったそうです。

教室の門の内側ですと、施錠しなくても大丈夫なような気がしてしまうお気持ちは分かりますが、道路と同じと考えて、かならずカギをかけるようにしてください。

◆スケジュールを今一度、ご確認ください

「ピアノ発表会」が終わると同時に、教室は夏休みになります。一音会本部の夏休みは8月7日（火）～16日（木）です。その間は、お問い合わせにお応えできなくなりますことを、ご了承ください。

夏休みあけのレッスンは、8月17日（金）からです。

お間違えのないよう、今一度、年間スケジュール表をご確認ください。皆さまにとって、楽しい夏休みになりますことを、心から願っています。

	日	月	火	水	木	金	土
7月	1	2	3	4	5	6	7 ▲
	8 ○	9	10	11	12	13	14 ■
	15 ◎	16	17	18	19	20	21 ▲
	22 ○	23	24	25	26	27	28 ■
	29	30	31				
8月				1	2	3 発	4 発
	5 発	6 発	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18 ▲
	19 ◎	20	21	22	23	24	25 ■
	26 ○	27	28	29	30	31	9/1 ▲

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。